



## <掲載記事>

- 平成27年度 野菜関係指導参考資料
  - ・平成26年度野菜研究所成果発表会
  - ・気象セミナー開催
- トピックス
  - ・前嶋研究管理員、植物調節剤功労者表彰受賞
  - ・にんにく品質向上研修会

## 平成27年度野菜関係指導参考資料

平成26年度までの試験研究成果の中から、下記の4事項が指導参考資料として取り上げられる予定となっています。詳細な内容については、27年度になってから(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所のホームページをご覧ください。

## にんにくのおんぶ症りん片とその発生条件

近年、にんにくのりん片に「おんぶ症」と呼ばれる形態異常が発生し、生産現場で問題になっています。この症状について検討したところ、本来保護葉になるべき部分に貯蔵養分が異常蓄積した状態であり、腐敗に至ることがあること、種子りん片重が大きいほど発生しやすいこと、りん片分化期前後に過剰な肥効発現が維持されると多くなることが示されました。過剰施肥が「おんぶ症」の発生を助長するので、適正範囲内での施肥を行うことが対策となります。

## ながいも「園試系6」と「庄司系」の特性比較

県内のながいも産地では、優良種苗として供給されている「園試系6」と並んで、岩手県の生産者が選抜した「庄司系」が比較的広く導入されています。これらの2系統について比較試験を行ったところ、「庄司系」の方がやや細長い形状となること、「園試系6」は肥大性がやや優るが平いもが発生しやすいことが示されました。系統の特性を踏まえた栽培管理の参考になると考えられます。

## やまのいもの青かび病による種いも腐敗防止法

やまのいも(ながいも及び食用むかごを含む)の切いも栽培では、青かび病による種いも腐敗が問題となります。薬剤による防除を検討したところ、チウラム・ベノミル水和剤(ベンレートT水和剤20)100倍希釈液、或いはイミノクタジナルベシル酸塩水和剤(ベルコートフロアブル)200倍希釈液に種いもを10分間浸漬する処理が効果的であることが示されました。

## ニンニク葉枯病のアゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル）耐性菌の発生と防除上の留意点

ニンニク葉枯病に対するアゾキシストロビン水和剤（アミスター20フロアブル）の効果低下が疑われたため、県内から採集した138菌株について調査したところ、45菌株が耐性菌と判定されました。耐性菌の発生が認められた圃場では、アミスター20フロアブルやこれに類するQoI剤の使用を中止し、他の圃場でも、QoI単剤またはSDHI剤との混合剤（アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、シグナムWDG）は1作につき1回以内とするか、QoI混合剤（アミスターオプティフロアブル）または他の葉枯病登録薬剤をQoI単剤と混合して使用する場合は2回以内の散布に留める必要があります。

## トピックス

### 前嶋研究管理員、植物調節剤功労者表彰受賞

公益財団法人日本植物調節剤研究協会創立50周年記念式典（26年12月12日に浅草ビューホテルで開催）において、当研究所の前嶋敦夫研究管理員（品種開発部、写真右）が、長内敬明りんご研究所長（写真左）とともに、植物調節剤功労者表彰を受賞しました。除草剤の研究開発に関する長年の貢献が高く評価されたものです。



### 平成26年度野菜研究所研究成果発表会

2月23日、本年度の研究成果発表会を開催いたしました。これまでの試験結果から、「ナガイモの系統比較」（品種開発部・柳野部長）、「ニンニクのおんぶ症りん片とその発生条件」（栽培部・古川主任研究員）、「ニンニクに発生した葉枯病菌の薬剤耐性とその対策」（病虫部・加賀研究員）及び「ダイコンのキスジノミハムシに対するテフルトリン粒剤（フォース粒剤）の効果的な処理方法」（病虫部・新藤研究管理員）の4課題について発表しました。当日は、関係機関や生産者等約150名の参加がありました。



## 気象セミナー開催

2月23日、研究成果発表会に引き続き、栽培部・伊藤研究員が、工業総合研究所、りんご研究所及び林業研究所と共同で実施したチャレンジ研究「メッシュ農業気象データシステムの有効活用方法の検討」の報告を基調として、気象データの活用法などに関する情報交換会を開催しました。IT業種、JA関係者及び普及指導員等約30名の参加があり、今後、気象関連の試験研究を進める上で参考となる貴重なご意見をいただきました。

## にんにく品質向上研修会(野菜研・県農産園芸課共催)

3月12日(木)、現在周年出荷されているにんにくの品質をいつの時期も高い状態で保つために、八戸市「きざん八戸」で研修会を開催しました。病虫部、對馬主任研究員から「イモグサレセンチュウに対応した総合的な技術対策について」、栽培部、庭田部長と伊藤研究員から「長期貯蔵にんにくの品質の実態と品質向上のための乾燥技術について」を説明。県内各産地のにんにく生産者、市場・青果物流業者、農協、全農青森県本部、県関係機関から187名の方にご参加いただき、積極的なご質問、意見交換がありました。国産の7割を占める青森県産にんにくの品質維持のため、今後も引き続きご相談に対応し、出前セミナーなどもお受けすることを約束しました。

